

メールマガジン「Realm」サンプル（第4号より）

■ 特集

「行政不服審査法の改善に向けた検討会 最終報告」について

本年1月14日に最終報告が公表された「行政不服審査法の改善に向けた検討会」においては、EBPM（Evidence-Based Policy Making：証拠に基づく政策立案）の手法、特にロジックモデルが活用されました。本メールマガジンの第2号でも触れましたが、ロジックモデルを活用したEBPMの手法では、まず、政策の効果を把握するために、政策の目的と手段の関係を論理的に整理して、評価の対象を特定します。そして、政策がその目的についてどの程度寄与するかを明らかにする材料（エビデンス）を収集し、政策の効果を把握した上で政策の立案を行います。本検討会においては、EBPMの手法を活用し、平成26年度改正の効果と課題を可能な限りエビデンスに基づき把握して改善方策を示すとともに、今後の継続的な見直しに資するよう、その効果を把握する指標を作成しました。

具体的に、どのようにEBPMを活用したかについては、以下のとおりとなります（詳細については、「行政不服審査法の改善に向けた検討会 最終報告」の参考1～3をご参照ください。）

本検討会では、第一段階として、ロジックモデルによって平成26年度の行政不服審査法の改正時の改正の目的と制度との関係を論理的に整理し、評価の対象を特定しました。そして、アンケート等でエビデンスを収集し、新たな制度が改正の目的にどの程度寄与したかを明らかにし、課題の把握を行いました。例えば、改正により「審理員の創設」がなされましたが、「審理員の指名等」→「審理員の適切な確保」→「処分に関与しない者が、両者の主張を公正に審理」という流れで、改正の目的である「公正性の向上」に繋がるという整理が行われました。そして、士業団体へのヒアリング結果等のエビデンスによって、審理員制度による公正な審理手続の実施の効果が明らかにされた一方、「審理員の手続遂行能力等の向上」といった課題が把握されました（参考1参照）。

次に、第二段階として、見直しのためのロジックモデルを作成し、改正の目的との論理的な関係を整理した上で、課題の改善方策を示しました。上記の課題に関して、具体的には、見直しのためのロジックモデルにおいて、「実践的な研修の実施」によって、「審理手続の担い手の能力向上」→「各種書類の改善と審理内容の充実」が図られ、目的である「公正性の向上・迅速な救済」が達成されるという論理的な関係を示しました（参考2参照）。

その際、改善方策について効果を把握する指標を作成しました。研修の受講者数や受講により実務に役立つと感じるかという指標や、答申書や裁決書等文書の記載内容で不十分な点が解消されたかという指標が示され、今後は指標をモニタリングすることによって、今般の改善方策の効果を把握していくこととなります（参考3参照）。

今回の検討を踏まえ、改善方策を進めるとともに、その効果を把握することで、政策の継続的な見直しに努めてまいりたいと思います。

最後に、こうしたロジックモデルの作成の過程の中で、新たな発見もあったので、一つ紹介します。行政不服審査法では、違法性のみならず、不当性についても審査を行うものとされていますが、運用上、違法と不当を殊更に区別して、審理手続や審査会審議を行っている事例は見られず、不当性審査の活用には疑義がありました。しかし、本当にその活用はされていないのかといったエビデンスを収集すると、違法か不当かの線引きが困難である事案においては、「違法又は不当」であることを理由に請求を認容している事例が見られ、違法であることまでは判断することが困難な事案において審査請求人を迅速に救済する役割を果たしていることが判明しました。当初、違法と不当を区別することにより制度運営に関わる者に一定の理解が進み、不当性審査が充実するのではないかとの意見もありましたが、上記のエビデンスを踏まえ、最終報告では、実務上は違法と不当を殊更に区別することまではせず、引き続き不当性も審査対象としていることを念頭に、審査庁において審査が行われていくことが望ましいと結論づけられました。これは、ロジックモデルを活用し、丁寧にエビデンスを収集したからこそ得られた結論だと感じます。

★ さらに詳細に知りたい方は以下もチェック↓

・本特集で取り上げた「行政不服審査法の改善に向けた検討会 最終報告」はこちらです。

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01gyokan01_02000136.html

・また、「行政不服審査法の改善に向けた検討会」の資料や議事等については、総務省 HP で更に詳しく御案内しています。

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/gyoseifufuku/index.html